



カトリック六甲教会 教会報

2014

12

No.516



2014年度 チャリティバザー ～愛を届けよう～

「今年こそは晴れます様に」という願いも空しく今年も雨の中のバザーになりました。けれども小雨であったお蔭で大勢の方々が来て下さいました。そして平年並みの収益を得る事が出来、盛況に終わりました。

今年は久しぶりに古本市が催されました。「古本を提供して下さいの方は記名の上推薦の言葉を添えて提出」しかも「売れ残った場合は本人に引き取って頂く」という非常に厳しい条件となりました。これは終了後古本が大量に残った場合、保管場所がなく処分に困るからです。又収集場所を受付にしたため受付の方の手を煩わせてしまいました。他の場所に記名されずに黙って置いておかれると誰が出されたのか分からず困るからです。今後古本市を続ける場合はこの条件が適応されると思います。どうぞご理解下さい。



毎年バザーが終わって帰るとき、体は疲れていても心は爽やかで充実感に満たされて帰路につきます。若い頃私はバザーの度に「なぜこんな疲れる事をしなければいけないか？」とふと思う事がありました。年を重ねる毎に少しずつ慣れて乗り越えられる様になりました。

六甲教会でいつ頃からバザーが開催される様になったかは存じませんが、長い歴史のうちに先輩から引き継ぎ脈々と続けられてきました。毎年続けているからこそ、この様な盛大なバザーが出来るのだと思います。バザーで共に働くうちに今まで知らなかった人と知り合いになれたり、知っているつもりでもその人の新しい魅力を発見したりする事があります。共に働くうちに培われた信頼関係は何にもまさる喜びです。そういう意味で六甲教会は目に見えない宝を蓄えているのだと思います。途中で一通り見て回りましたが、どのグループも笑顔と笑い声が満ちていました。

バザーを終え、何の事故も食中毒もなかった事がなによりも良かったと感謝しています。

「神はご自分を愛する人々とともに働いてすべてを益となるようにして下さい。」(マ8・28)



という聖書の言葉がふと心に浮かんできました。
ご協力して下さいた総ての皆様には厚くお礼申し上げます。

(地区委員バザー担当 森川)

チャリティーバザー「蚤の市」報告

今年もバザーの当日はあいにくの雨となりました。東灘南地区は蚤の市の担当で、雨でも晴れでも2階の会議室が売り場となっており、準備の段階からやり易かったように思います。

ところでバザーのチラシには、未使用・新品・消費期限を確認と書かれていますが、「蚤の市」というと私自身、パリの下町のお洒落でアンティークなお店というイメージを持っています。そのせいもあってか沢山の寄贈品を頂いていますが、中には幾つか仕分けの時に処分しなければならない品物もあり残念な事だと思っております。そして、私にとって難しいと思



われる値付けも、「蚤の市の値段付けはとっても楽しい！」と言ってお手伝い下さる方もいらっしゃって、衣類・雑貨・日用品・食品に仕分け、グループに分かれて皆さんで真剣に相談しながら値付けをしていただき、おかげ様で一日で終わることが出来ました。

バザーの当日、開始後しばらくすると部屋の中が沢山人で溢れ、殺気を感じる程の時もありましたが、30分程で落ち着いてきてホッといたしました。また、小さな女の子が、50円と書かれた箱の中からキラキラした馬の形に見えた？ステキなおもちゃを探し出して10円玉を差し出しました。「50円ですが？」と聞いてみると、お財布から10円玉を一枚ずつ取り出してきちんと支払を済ませ、横に立っていたお兄ちゃんの顔を見て微笑み二人で立ち去りました。小さな可愛い二人の子供が、ステキな買い物が出来て嬉しそうに立ち去った姿が印象的で、私の心の中に暖かい温もりが溢れるのを感じました。

木曜日から日曜日までの四日間、地区長を始め沢山人の方々にお手伝いを頂き、本当に嬉しく思っております。ここで厚くお礼申し上げます。お昼ご飯の時は、地区の皆さんとテーブルを囲んでしばし和やかな語らいの時間を持ち、楽しい四日間を過ごすことが出来ました。

また、バザーを通して貴重な体験もさせていただき、人と人とのふれあいの大切さを神様の恵みによって気付かせて頂きました。

尚、蚤の市のために寄贈品を持参して下さった、お一人お一人の方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
(東灘南地区 堤)



ナルドの花たより

謙虚であることにより私たちは、互いの重荷を担い合うことができます。(2014. 11. 4)

キリスト者を自任する人が助けを必要としている人を無視することは、到底受け入れられません。(2014. 11. 7)

働くことはなんと大切なことでしょう。それは人間の尊厳のため、家族を築くため、平和のためにとっても、です。(2014. 11. 12)

この世界は本当に雑音だらけです。心の中で、神の前において、沈黙でいることを学べますように。(2014. 11. 19)

切実に助けを必要としている人に出会う時、私たちはそこに神様の顔を見ているでしょうか？(2014. 11. 23)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート (邦訳) より

『侍者練成会』（10月26日及び11月16日）

10月26日（日）、11月16日（日）の両日、侍者練成会を行いました。26名の子供達が参加し、侍者の役割と動きについて勉強しました。今年はアルフレド神父様から、侍者の心得や神父様が日ごろ感じておられることをお話になり、子供達は真剣な面持ちで練成会に臨みました。すでにお気づきだと思いますが、福音書の朗読の際に司祭の両脇で侍者がロウソクを持って立つ等、侍者の動きが変わりました。聖堂での実践練習では司祭役を典礼部の河野さん、教会学校の久保リーダー、侍者の柴原君が交代で務め、アルフレド神父様が説明しながらご指導くださいました。子供達はかなり混乱していた様子でしたが、すでに侍者をしている子供達は呑み込みが早くてさすがだと思います。まだ子供達に戸惑いはありますが、より一層しっかりと侍者の務めを果たしていくことを期待しています。
(典礼部 橘)

子供達の感想：

★ろうそくをできるだけしずかにとる。行き先をまちがえない。みんなよりさきにごせたいがたべれるのが楽しみ。
(たけし)

★気をつけた方がいいことは、音のしないくつで来ること、女の人はかみをくくる、ミサの30分前に教会に来ること。楽しみなことはロウソクをぬく時が楽しみです。
(ショウ)

★気をつけたほうがいいことは、お水を「バツ！」といれすぎないことです。かみのけとかさうゆうのに気をつけたいです。たのしみなことは、じしゃをすることです。
(あいり)

★手をあわせる。手をくっつける。できるだけまちがえないようにする。れいぎたたくする。
(まりあ)

★気をつけることは、手をあせたままにすること。じしゃをやっているときまちがえそう。
(よしや)

★じしゃをするときふざけない。
(ゆうや)

★私は今日、侍者会に参加して、学んだことをしっかりおぼえておいて、まよわずに本当のミサで侍者になった時に、することができるといいです。また、しっかりまっすぐむねの前で指がはなれないように手をあわせ、ちゃんと神父さまのお手伝いができるように、時間があるときに順番を思い出してみるようなことができるといいです。
(友咲)

★私は、今日のことを学んで、じしゃがとてまたのしくなってきました。これからじしゃをする中で、人をゆずり 頭を働かしてしようと思いました。
(若菜)

★手を合わせる位置。歩く時に音のしないように歩く。ミサの始まる30分前に集合。道具の名前を覚える。
(慈英)

★かみの毛のゴムや、色に気をつけて、おくれずにちゃんと30分前にきたいと思いました。また、手の位置やしせいにも気をつけたいです。
(瞳)

★くつや前がみに気をつけたいです。また、新しくなった侍者の動きもちゃんと覚えて、いつでもできるようにしたいです。そして、家も近くにあるので30分前に来れるようにしたいです。手の位置や姿勢、服装についてもがんばりたいです。
(七海)

★新しくなったところに気をつける。緊張せずにする。ふだん侍者をやるときには服装などに気をつける。
(剛)

★今までと大きくやり方が変わった。AとBが廃止された。それと、ろうそくを抜くのは忘れないだろうが、他の細かい動きは自信がない。どちらが行くのか、ということも気を付けたい。
(湧音)

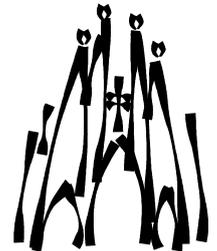
★前とかわったからおぼえにくくて、ややこしくて、はやくしたり、もう一つこっちの人がいったから次は自分だということを考えないといけないから気をつけようと思いました。
(りつほ)

第一講話 黙示録 21. 1-4「新しい天と地」に入るために

- ・回心（神に心を向ける）
- ・改心（改新）
- ・会心（満たされる心）
- ・快心（快く生きる）
- ・戒心（用心深く）
- ・開心（受け入れる心）
- ・解心（解放される心）
- ・誠心（誠める）
- ・懐心（なつく心）
- ・悔心（痛悔する）

第二講話 ルカ 5. 38 「新しいぶどう酒は新しい革袋に」（大阪教区「新生計画精神」）

- ・「谷間」に置かれた人々の心を生きる教会
- ・交わりの教会へ
- ・共同責任を担い合い、協力する教会へ
- ・聖霊の導きを識別しながら、ともに歩む教会へ
- ・司祭/修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任を前面に出す



第三講話 「福音の喜びが溢れる教会」

- ・永遠の新しさを求めて
- ・出向いている教会を
- ・社会変化の最中の教会として

排他的な社会に、 拝金主義の風潮に、 無関心・利己心・虚栄心の渦状に
相対的価値観に、 都市型の利己心に、 不毛の悲観主義に

ミサ 「この人たちは、もはや死ぬことがない。天使に等しい者であり、復活に与る者」

聖書朗読箇所 黙示録 11. 4-12、ルカ 20. 27-40

~~~~~

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 **小教区評議会**

12月14日(日) 11:15 小教区評議会



📖 **教会学校**

12月13日(土) クリスマス会・終業式

📖 **広報部**

12月27日(土) 教会報1月号印刷

~~~~~

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

12月3日(水) 10時 手芸の集い(第1・2会議室) どなたでも参加ご自由です。

12月8日(月) 9時30分 ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)

12月13日(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

12月21日(日)10時ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール) 手作りコーナー・東北物産展他

12月24日(火) 9時30分 ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)

♪クリスマス・チャリティーコンサート♪

12月6日(土)13時開演

カトリック神戸中央教会

「社会活動神戸センター&須磨夜回り会」
支援コンサートです。お誘いあわせのうえ、
多数のご来場をお待ちしております。

“福島の写真展示”もしています。
あわせてご覧下さい。

越年越冬の炊き出し

12月28日(日)～1月5日(月)

東遊園地

10時 テント張り等準備

11時 食事作り

12時 配食

カトリック当番日：1/1(木)・5(月)

たくさんのボランティアさんがいら
しています。お立ち寄りください。

・・・毎月第二土曜日六甲教会炊き出しについて・・・

毎月第2土曜日が、小野浜公園における炊き出し担当になっています。
午前10時から教会台所で中華丼を作り、午前11時30分ぐらいから車
2～3台で小野浜に向かっています。お手伝いされているかたは、大体
男性2～3人、女性8～10人位です。いつも高山神父様が小野浜まで、
ご一緒していただいています。



現地につくと、活動センターの方、おじちゃんボランティアで、テント・机・洗い場等が用意さ
れ、もう皆さん並んでいらっしゃいます。ちょうど12時から配食が始まり、最近では130人位で、
ボランティアも皆で中華丼をいただき、後はおかわりで、若い方も増えているので中華丼はとても
人気があります。食器・箸・鍋等洗いや、後片付けはすべておじちゃんボランティアがするので、
我々は午後1時頃には教会への帰途になります。

皆優しくて、楽しいですよ！ぜひ覗いてくださいさね！

(社会活動部 江本)

<墓地っ子だより ～秋の墓参～>

11月2日(日)死者の日に教会のお墓参りをしました。今にも雨が降りそうとうつろしい空模
様でしたが、傘をさすことも無く穏やかな暖かい墓参りとなりました。

共同墓地への納骨は18体、名板への刻銘者は約30名でした。つまり12名の方が生前刻銘者で
す。このように共同墓地を希望される方が多いのは最近の傾向で、後継者が居ない、居ても心配を
かけたくない、遠く離れているなどの理由のためです。

すでに共同墓地には200体以上のお骨が収められていますので、常にお花があり、どなたかがお
参りされていることが判ります。多分お墓の中はにぎやかな懇談の場となっているのではないでし
ょうか？

次回の墓参日は2015年3月8日(日)です。

(墓地委員会 SF)



第13回 クリスマスコンサート

開催日： 2014年12月14日（日）
 開演： 14時（開場13時30分）
 場所： カトリック六甲教会聖堂
 入場料： 無料（どなたでもご自由にお入りください）
 指揮： エリック・コロソ
 出演： 声楽アンサンブル カメラータ神戸、
 ゆりかごの会、カトリック六甲教会有志、
 一般有志、メサイア室内楽アンサンブル
 曲目： クリスマスキャロル、
 メサイアより（ヘンデル作曲）他

クリスマスコンサート実行委員会

～．

第56回神戸市民クリスマス

キャロリング in KOBE 「こころをむすぶクリスマス」

聖句： 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」
 マタイによる福音書5章9節より

日時： 2014年12月19日（金）

場所： 日本聖公会 神戸聖ミカエル教会
 神戸市中央区下山手通5-11-1（兵庫県庁の西）

入場料： 無料。どなたでもご参加いただけます。

プログラム：	1 キャロリング	17：00～18：45	北野コース・元町コース
	2 子どもプログラム	17：00～20：20	入退室随時可
	3 ほっとタイム	18：00～19：15	
	4 祈りと祝福のとき	19：30～20：30	
	5 青年のつどい	20：30～21：30	



☆六甲教会は北野コース担当です。新神戸オリエンタルアベニュー1F大広場に集合し、5時スタートです。例年と集合場所が変わっていますのでご注意ください。ご参加お待ちしております！
 カトリック六甲教会「祈りと音楽の集い」シリーズ Vol.15

《 図書室からのお知らせ 》 2014年11月に入った図書から

☆ **使徒的書簡 女性の尊厳と使命** —— 教皇 ヨハネ・パウロ二世 ペトロ文庫

『神の永遠の計画において、女性は愛の秩序が最初に根をおろすところです。』

創世記から黙示録まで聖書テキストを通しての黙想による教会と社会における女性の尊厳と使命に関するメッセージ。

付録として「女性への手紙」および関連する一般謁見講話5話を収録。

☆ **サンタ・マリアのご像はどこ？** —— 谷 真介 著 パウロ文庫（女子パウロ会）

250年にわたる厳しい弾圧に耐え抜いたキリシタンの発見に立ち会ったプチジャン司教の生涯を描く。日本の信徒たちの子孫発見150周年（2015年3月17日）を記念する出版。

☆ **はじめて教会へいらしたあなたに** —— ガエタノ・コンプリ ドンボスコ社

カトリック教会のごあんない。次のことで質問を受けたら、あなたはどうか答えますか？

- ・教会とは
- ・神父はどんな人
- ・神と祈り
- ・ミサ
- ・神？
- ・イエス
- ・マリア
- ・聖書とは
- ・カトリックとプロテスタント
- ・修道院
- ・シスター
- ・・・



みんなの広場

主イエス、来てください

「主イエス、来てください」。この言葉は、待降節に繰り返されます。この言葉は、キリスト教の歴史が、意図的な空虚さのようなものや、自ら選んだ不十分さのようなもののうちに、ずっと生きてこなければならなかったことを意味しています。完全に満たされるということは、常にまだこれからやってくるものです。今すぐに、要求する必要があるものではありません。この満たされていないということのおかげで、人生は広く開かれ、特に、恵みに対して開かれており、自分自身ではなく神様が創造する未来に対して、特に広く開かれています。このことこそ、福音が私達に強く勧めている「目を覚ましていなさい」ということを、まさしく意味することなのです。私達には、他にも待降節について用いる言葉があります。「気づく」、「生き生きと生きる」、「気を配っている」、「注意を怠らない」、「目を覚ましている」といった言葉は、どれも待降節について適切なものなのです。こういった言葉のすべてを越えて、待降節とは、完全な良心への招きであり、良心の犠牲のための備えなのです。

私達が誰かに満足させてもらうことを要求する時、自分の都合の良いように歴史の完成を要求する時、心配や不満が取り除かれることを要求している時、私達は、「どうしてあなたは私のために何もしてくれないの。どうして人生は私のために何もしてくれないの。」と言っているようなものです。私達は、「主イエス、来てください」ということを拒んでいるのです。いつも神様が与えてくださっている完璧な作品を、手を伸ばして受け取ることを私達が拒んでいます。

「主イエス、来てください」は、希望の持つ美しい性質である自由と服従に飛び込むことです。希望の神学的な徳は、閉じることなく、決意することなく、満たされ、幸せでさえある忍耐と信頼に満ちた意志です。なぜなら、私達の「満足」は、今や次元が違うレベルにあり、私達の「源」は、私達を越えているからです。イエスが私達の歴史にやってきたのと同様に、個人的なジレンマと苦しむ世界にイエスがまた来ることを信じることができます。キリスト者としての私達の過去が、キリスト者としての私達のプロローグになり、「主イエス、来てください」ということは、絶望の嘆きではなく、無限の希望の確かな叫びなのです。

ゆっくり味わいながら考えましょう：

イエスが来てくださることを準備するために、どのような人生についての期待や要求を手放すことができますか。

(ダニエル・コリンズ神父)

Stille Nacht, Heilige Nacht.

あの夜、マリアとヨセフが宿ったのは、人間が宿る場所ではなかった。福音記者聖ルカはその理由を簡単に「宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」と書き残している。天使たちの歌声を聞いたのは喧噪のベツレヘムではなく、野に羊の番をしていた下層の労働者であった。「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」(ルカ2:15)。

今“Stille Nacht”はどこにあるのか。“Heilige Nacht”はどこへ行ってしまったのか。

西方教会で12月25日が降誕祭になったのは4世紀頃ミトラ教の冬至の祭を転用したものではないかと言われている。それまでは1月7日の「公現」の祝日しかなかった。降誕祭は主の誕生日を祝うのではない。救いが人間の目に見え触れるものとして現れたことを記念する日である。クリスマスの喜びはドイツの古謡にある言葉、「この嬰兒は罪の贖いの生け贄の小羊」に尽きる。

12月8日、嘗てこの日は「童貞聖マリア無原罪の御孕りの大祝日」と称していた。今は「無原罪の聖母」となっている。日本語に関する限りその意義は異なるのではないか。「彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く」(創世記3:15)。神の御言葉が楽園を追われた人類に実現する最初は“無原罪の御孕り”であった。おそらくマリア様ご自身もご存じなかったこと。聖母マリアの無原罪が唱えられたのは9世紀であったと言われるが、アキノの聖トマ、カンタベリーの聖アンセルモ、大聖アルベルト、聖ボナVENTウラなど聖母の無原罪を認めなかった著名な神学者も少なくない。聖母マリアの無原罪の御孕りが信ずべきこととして宣言されたのは、1854年12月8日、教皇ピオ9世の回勅 *Ineffabilis Deus* によってであった。

この教会の聖堂が「無原罪の聖母」に捧げられていることも覚えておこう。無原罪の聖母、待降節、主の御降誕、御公現、御受難、御死去、御復活、御昇天、聖霊降臨。我々はその中に生きている。

「静かな夜、聖なる夜」(終)

(三好)

師の教え

私の人生で素晴らしいと思えるのは、師と仰げる司祭に出会えたこと。彼は2003年11月、主に導かれ、向こう岸へ渡られたが、教えは多くの人々の心に生きづいている。

生前、言っていたことで思い出されるのは「ことをなす時には動機が重要。神からのものなのか、己の欲望なのか、自我なのか、見極めて進みなさい」と言われたことである。

人生の岐路に立ち、神からのものなのか、判断し難く、自分の考えを定めることができず、決め兼ね悩むことがある。そんな時、祈りと共に、神に問うが、神は黙して語らず。神からのものであるか否か、思いあぐねた。

月日が流れ、自分なりの判断基準が少しは出来つつあるように思える。其の1つは、自分にとって行きたくない方向、自分が損する方向を選ぶ。2つ目はかっこよい方ではなく、かっこ悪い方、誰も選ばない方を選ぶ。3つ目は、頼まれたら断らずに引き受ける。こんな道を一途に歩んでいると、いつしか道は整い開いて行く。神の手を感じられる。

人生は主と二人旅。自我を捨てる旅である。

(J.Y.)





2014年クリスマス及び2015年元旦ミサ

12月24日(水) 主の降誕 (夜半のミサ)

16時30分、19時、21時

キャロリング 19時ミサ前: 18:40頃 ~

21時ミサ前: 20:40頃 ~

※車でのご来場はご遠慮ください。

12月25日(木) 主の降誕

7時 (早朝のミサ)、10時 (日中のミサ)

1月1日(木) 神の母聖マリア (新年のミサ)

0時、7時30分、11時

事務所年末年始休業のお知らせ

六甲教会事務所 2014年12月29日(月)~2015年1月3日(土)

大阪教区事務局 2014年12月30日(火)~2015年1月5日(月)

教会報1月号の発行は、12月28日(日)です。

編集会議 12月21日(日)です。

記事原稿は、12月14日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。 (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
電 話 078-851-2846
F A X 078-851-9023
発行責任者 アルフレド・セゴビア
編 集 広 報 部